

2 期目の所信表明

1. はじめに

令和元年度定例会 9 月会議の開催にあたり、私の町政 2 期目のスタートとなる本議会において、町政運営に対する基本的な考え方を述べさせていただき、議会並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 27 年 10 月に初めて町長に就任して以来、「笑顔あふれる福島町」を実現するため、思いやりのある行政を目指して、まちづくり基本条例の基本理念である町民との協働による“まち”づくりに、この 4 年間は全力で奔走してきたところであります。

そのような中で、議員各位をはじめ多くの町民の皆様のご理解をいただき、この度の選挙において無投票という形で、当選をさせていただくことができ、改めてその責任の重さを実感するとともに、大変光栄に思っているところでもあります。

このことは、町民の皆様には 1 期目の公約として、お約束をした政策が保育料の無償化、空き家対策、「がんばる地元企業等応援条例」及び「がんなんかに負けない基本条例」など、形となって施策に反映され、そのことが町民の皆様には広く受け入れられたことによるものと感じております。

平成の時代が幕を下ろし、令和の時代がスタートしておりますが、「万葉集」が出典とされる「令和」の元号には、「春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたい。」との願いが込められていると言われております。

私たちは、令和の時代へ福島町を繋いでいく責務があり、町民一人ひとりが新たな時代へ希望を抱きながら、勇気を持って歩むことで、夢を叶えることができるよう

な“ふくしま”の実現に向けて、引き続き全力で思いやりのある行政を真摯な姿勢で取り組んでまいります。

2. 町政運営に関する姿勢

次に、新たな任期4年間の町政運営全般に関する私の基本的な姿勢について申し述べさせていただきます。

これまで私は、町づくり基本条例の基本理念である「町民との協働によるまちづくり」と「思いやりのある行政」の二つをまちづくりの基本的な姿勢とし、第5次福島町総合計画で掲げている五つの政策を実践的かつスピード感を持って取り組んできたところであります。

人口減少や高齢化が進む中で、社会情勢が大きく変化してきており、これまで以上にきめ細やかな町民の立場に立った行政の推進が求められております。

時代の変革と共に刻々と変化する行政ニーズを的確に捉え、地域や現場の声を大切にしながら着実な町政運営に心掛けてまいりたいと思います。

具体的には、町職員自ら考え行動する姿勢を持ち、その現場に直接足を運び、町民の声にしっかりと耳を傾け、そこに存在する問題や課題を的確に把握することで、課題解決に即した対策を創り上げることが可能となります。

まちづくりの主役である「町民」と町民から負託を受けた「議会」並びに「行政」が情報を共有し、一体となったまちづくりを展開することで、町のさらなる発展に繋がるものと確信しております。

そのために、私自身が先頭に立ち、リーダーシップを発揮しつつ、これらの基本姿勢を堅持しながら、大胆な発想と迅速な判断と決断力を持って、町政をリードしてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご支援をお願いいたします。

3. 町政運営の基本的な取組方針

次に、町政運営の基本的な取組方針について、ご説明いたします。

第一に、1期目の政策を踏まえて、引き続き地域全体で子育て支援を支えてまいります。

福島町の人口は、昭和30年の1万3千人台をピークに、一時、青函トンネル工事の本格化による人口増があったものの、昭和51年を境に急激に人口が減少してきており、ピーク時の三分の一となっております。

人口減少が進む中で、子育て支援を地域全体で推進する施策により、ここ数年の生まれる子供の数は、減少幅が小さくなってきており、若者や高齢者がふるさと福島町で「働き続けたい、暮らし続けたい」という思いを抱いていただけるようなまちづくりを進め、基本的な施策の着実な推進を図ってまいります。

第二に、地場の生産力を向上することで、町内の経済循環を促進することです。

当町の基幹産業は、水産業であり、浜からの生産力を高めることが町の経済の循環に欠かせない要素となっております。

近年は、昆布養殖やウニの生産額が安定している一方、イカの不漁が続いており、生産額の減少とともに、するめ加工の状況も厳しいものがあります。

この危機的状況を打破するためには、アカモク養殖やアワビの陸上養殖などの新たな養殖産業を創り出す必要があります、引き続き現在取り組んでいる事業の推進を図ってまいります。

第三には、持続可能な行財政運営の推進についてであります。

1期目の4年間は、子育て支援やがんばる地元企業支援など積極的な財政投資を行った結果、財政調整基金を

一部取り崩しながらの財政運営を余儀なくされてきたところですが、今年度策定の第5次福島町総合計画後期実施計画では、第6次福島町総合計画に向けて、大きな課題の整理や問題点の解消に向けた準備期間と捉え、改革のスピードを少し緩めながら、現在策定中の福島町行政改革大綱に基づき行政改革を積極的に進めるとともに、ごみの減量化や医療・介護費の抑制、事務事業の見直しなどによるコスト削減を図り、人口減少に対応した簡素で効率的な行財政運営の構築に努めてまいります。

4. 具体的な施策大綱

当町は、現在、第5次福島町総合計画前期4か年の実施計画が最終年を迎えており、今年度の12月を目途に後期4か年の実施計画をまとめ上げることとしております。

このようなことから町政運営の基本的な方向性として、町づくり基本条例に掲げる“まち”の普遍的な5つの「まちづくりの目標」を実現するため、第5次総合計画期間中の8年間の重点施策として、次の5つを継続し、新たに選挙公約として掲げた「地域資源を活用した交流人口の促進」と「第2青函トンネル構想の実現」の2件を追加いたします。

まず、1点目の「次世代を担うリーダー等の育成」については、基本的に人財育成基金条例を継続し、更なる利用促進を図ってまいります。

次に、2点目の「産業の再生による雇用の創出」については、漁業基盤の生産拠点となる福島漁港及び吉岡漁港の労働環境及び衛生対策の充実を図ってまいります。

また、養殖昆布やウニなどの前浜資源の安定的な生産体制を確保するため、新たに総合的な種苗生産施設の整備を図ってまいります。

さらに、現在、進めている蝦夷アワビ陸上養殖及び食

べる昆布についての企業化を進めてまいります。

なお、がんばる地元企業応援条例に関しては、3か年の投資により事業への継続意欲が現れ、地域経済の循環を促すなど一定の成果があったものと考えており、今後については、新たに起業する事業者や事業を継承する若者を対象に、新たなチャレンジ交付金制度に移行してまいります。

さらに、森林資源の活用や最近の異常気象による災害などに対応した危険木などの除去に関して新たな制度を構築してまいります。

次に、3点目の「若者等の定住促進と子育て環境の充実」については、引き続き保育料及び給食費の無償化など子育て支援の充実を図るとともに、若者等の定住促進に向けて多様なニーズに対応した、新たな住宅環境の整備を図ってまいります。

次に、4点目の「がん予防対策の充実」については、町内医療機関と連携を図りながら、がん検診率の向上に努めるとともに、町民一人ひとりが自分の健康は自分で守るという意識の下、健康寿命の延伸に努めてまいります。

また、町民の医療のよりどころとなる町立診療所の安定的な経営に努めてまいります。

次に、5点目の「高齢者等の安心安全な生活環境の充実」については、高齢化が進行する中で高齢者が住み慣れた故郷において、生涯住み続けることができるよう高齢者施設の整備支援を行うとともに、社会福祉協議会や関係機関と連携を図り、新たな施策を模索しながらAIなどを活用した高齢者等の見守りの充実を図ってまいります。

次に、6点目の「地域資源を活用した交流人口の促進」については、殿様街道や千軒そばなどの歴史的、地域資源を活用し、また、本年6月から運航した岩部クルーズ事業など、千軒、岩部地区を中心に引き続き事業展開を

図るとともに、町外へ積極的に情報を発信することで、交流人口の拡大を目指してまいります。

また、情報発信基地並びにまちづくりの拠点となる新たな「道の駅」について、若者を中心に現在、検討が進められており、これらの検討を踏まえて、福祉センターの再整備や図書館の建設など総合的に検討を加え、町としての方向性をまとめ上げてまいりたいと考えております。

最後に、7点目の「第2青函トンネル構想の実現」については、実現する会や議会と連携を図りながら、構想の実現に向け目に見える活動を展開してまいります。

5. むすび

以上、2期目の就任にあたり、私のまちづくりに対する心構えや基本的な方向性について、申し述べさせていただきました。

現在、日本全体が人口減少時代を迎える中で、働き手の不足や生産人口の減少など、景気の先行きは不透明なものがあり、当町においてもイカの不漁など低迷が続いており、町内経済は大変厳しい状況下にあります。

このような中で、これまでの4年間で行ってきた政策において、一定程度、成果も見られる状況にあり、今後の4年間については、より少ない経費で効率の良い町政運営に向けて、職員一丸となって取り組んでまいり所存であります。

また、町民の幸福度のアップに向けて、町民の豊かさを最優先に探求してまいります。

幕末に備中松山藩の家老として活躍した「山田方谷」は、政治の根本は「誠」の一字であると言っております。

治められる者の立場に立ち、誠心誠意己を尽くすこと

が、思いやりのあるまちづくりの原点と捉えており、私に与えられた使命と感じております。

現代を生きる私たちは、明治、大正、昭和、平成と、先人たちが築き上げてきた「ふるさとふくしま」の歴史と文化と人々を「令和」という新たな時代へ引き継いでいく役割があり、私は引き続き町のリーダーとして、町民の皆様の先頭に立ち、与えられた任期を粉骨砕身の努力を持って、笑顔あふれる福島町の実現のため、町民の皆様と共に未来の福島町を切り拓いていく覚悟を持って、全力で町政運営に取り組んでまいり所存であります。

議会の皆様をはじめ町民の方々の格別なご理解とご協力をお願い申し上げます、私の2期目の所信表明といたします。